

留学体験記

トゥンク・アブドゥル・ラーマン大学 (マレーシア)

国際文化交流学部国際文化交流学科 明圓 侑奈

留学期間：2023年6月～2024年1月

私は2023年6月～2024年1月までマレーシアのトゥンク・アブドゥル・ラーマン大学(UTAR)に交換留学しました。UTARは2002年にマレーシアの華人協会が設立した大学で、2つのキャンパスがあります。私は首都クアラルンプールから電車で30分程のスンガイロンキャンパスで、約7か月間現地の学生や留学生とともに過ごしました。日本人は私一人だったため、始めは不安もありましたが、マレーシアで出会った方々は皆とても親切でフットワークが軽く、学校生活と私生活の両方でたくさん交流することができました。

一番苦労したことは授業で出されるグループ課題とテスト勉強です。レポートとプレゼンテーションの量がとにかく多く、同時に中間・期末テスト勉強もしなければいけなかったため、文字通り頭を抱える日々が続きました。私がこれを乗り越えることができたのは周りの友人を頼り、自分に足りない部分を助けてもらえたからだと思います。留学して改めて、自分がたくさんの人に支えられているのだという実感が湧きました。

また、授業は英語で行われますが、生徒のほとんどが中華系だったため、日常的には英語と中国語をどちらも聞いていました。マレーシアは多言語国家なので多くの人バイリンガルです。そのため友人との会話は英語でしており、当時はそれで精一杯でしたが、今思えばせっかく中国語ネイティブが身近にいたのだからもっと中国語を使う練習をしておけばよかったとも思います。

自分の英語力不足に悩むこともありましたが、それ以上に楽しいことがたくさんありました。まずは台湾からの留学生との共同生活です。休日は遠出をしたり、お互いの国のご飯を作ったり、日本のアニメを一緒に見たりしました。文化も年齢も違うハウスメイトと深い関わりをもつことができたのはとても嬉しく、自分の成長にも繋がったと感じています。そして多国籍ならではの様々な食文化を味わえるというのも留学中の楽しみでした。学校の近くにも飲食店がたくさんあったので、食べものが合わないということもなく、特にマレー料理が大好きになりました。

留学は楽しいだけでなく辛いこともあります。どの経験も貴重な財産になると思

ます。上手くいなくてもきっと何とかあります。今後 UTAR への留学を考えている人は、ぜひ前向きな気持ちをもって挑戦してほしいです。



←友人と遊びに行った時の写真



←マレーシアの国民食ナシレマの写真